

- 1 教育事業名 全国高校生体験活動顕彰制度
「地域探究プログラム・オリエンテーション合宿 in とかしき」
- 2 ね ら い 探究学習の手法を取り入れ、宿泊を伴うオリエンテーション合宿を通して、“離島”というフィールドを課題対象とした「地域課題の探究方法（実践活動を含む。）」を学習し、ものごとを探究する姿勢、主体的に取り組む態度、課題に向き合う力を身に付けるカリキュラムを実施する。
- 3 期 日 令和5年8月15日（火）～8月17日（木） 2泊3日
- 4 場 所 国立沖縄青少年交流の家
- 5 募集定員 日本在住の高校生及びそれに相応する学籍又は年齢にあるもの 8名
- 6 参加人数 6名
- 7 参加者内訳 男子0名、女子6名（高校3年生2名、高校2年生4名）
- 8 講 師 金城 満 氏（渡嘉敷村教育委員会・教育長）
- 9 実施プログラム

8/15 (火)	8:00	8:15	9:30	10:00	11:30	12:00	13:00	14:00	16:30	18:00	19:00	20:30	22:00
	会議室 とまりん地下 集合・受付	ガイダンス	乗船	フェリーと かしき	移動	昼食	講話 「地域づくりの 実践」	フィールドワーク① 「地域の魅力を発見」	フリー タイム	夕食	講義・演習① 「地域理解」	入浴	就寝
	6:00	7:40	9:00	11:00	12:00	13:00	15:30	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	
	起床	朝食	フリー タイム	講義・演習② 「課題解決の 基礎」	フリー タイム	昼食	フィールドワーク② 「地域課題の探究」	講義・演習③ 「地域課題の 探究」	夕食	フリー タイム	発表①	入浴	就寝
8/17 (木)	6:00	7:40	8:45	9:00	11:00	12:00	13:00	14:30	15:30	16:00	17:10	17:40	18:40
	起床・ 清掃	朝食	清掃 チェック	講義・演習④ 「行動計画の 基礎」	フリー タイム	昼食	発表②	エン ディング	移動	乗船	フェリーと かしき	泊港着	とまりん にて解散

10 事業の様子



ガイダンス



地域づくりの実践



フィールドワーク①



フィールドワーク②



グループワーク①



グループワーク②



グループワーク③



課題解決に向けての意見交換



修了証授与

11 エピソード（参加者の声、アンケートより）

【参加者（生徒）の声】

- ・ 普段あまりしない、自分で調べたり、学んだり、さらに解決するために考えるという事を通して力が身に付いた。
- ・ 3日間を通して、学校では学べないことがたくさんできたし、島の現状を生で聞けて、いろいろと考えることができた。
- ・ プレゼンする機会があまりないので、このプログラムを通して、プレゼンができて楽しかった。
- ・ グループのみんなと話し合いをして沢山考たり、こんな意見もあるんだ、などの新しい発見も出来たので良かったです。沢山のことを学んだのでこれからその経験を活かせるといいなと思いました。
- ・ 自分の地域や島のことを沢山考えられる機会でした。

12 担当者所見

（1）成果

- ・ 全カリキュラムを通して取り組むことで、ものごとを探究する姿勢、主体的に取り組む態度、課題に向き合う力を身に付けることができた。
- ・ 全国高校生体験活動顕彰について知ることができ、オリエンテーション合宿に望むにあたっての姿勢や視点を身につけ、高校生ならではの発想で取り組むことができた。
- ・ ゆとりある日程を組むことで参加者同士の交流が進んだ。違う地域の同年代の参加者と寝食を共にしながら協働し直接関わることで、お互いの夢を語り合う等、SNS等では得られない刺激が成長に繋がった。
- ・ 探究の手法やプレゼンテーションに向けての取り組み方など、とても勉強になったという感想が多く、参加した高校生が有意義な活動を実感していた。
- ・ 地域との関わりをもつことができた。高校生の発想での提案について興味を持ってもらうことができ、地域おこしのきっかけとなりうる可能性がある。
- ・ 事業を通して学んだことを持ち帰り、家族や学校の同級生と共有しようとする意志が見られた。

（2）課題

- ・ フィールドワークの際の参加者の移動手段を考えると募集人数を増やすことが難しい。
- ・ フィールドワーク先の開拓が難航している。継続的に連携が可能な地域の方を見つけない。
- ・ 地方ステージへエントリーする参加者が今年度もいなかった。オリエンテーション合宿終了後のサポートの方法を模索する必要がある。